

2015 推・帰・社

受 験 番 号	
------------	--

医学部保健学科

小論文Ⅱ問題

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. この冊子のページ数は4ページです。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所等があった場合は申し出てください。
3. 問題冊子の余白は下書きに使用してもかまいません。
4. 解答は所定の答案用紙に記入してください。
5. 答案用紙は持ち帰らないでください。
6. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

1 次の文章を読んで、問1に答えなさい。

これからは個人のエネルギーが要る時代

私たちより少し前の人々は、家族と子どもの平穩を何よりも大切に生きてきましたね。そういう人生だって、内情は波打つこともあったでしょうけれど、でも穏やかな一生を守ることが生きが이었다と思います。

けれども今は、広く世の中や世界とつながり、私たちには、もっと大きく、エネルギーの必要なチャレンジが与えられている。ただただ今までのスタイルに従っていくのではなくて、自分で何が大切かを考え、クリエイティブな試みをする時代になりました。仕事は多岐にわたるようになるし、こんなことをしなくてはならないのかと困難を感じる日々もあるかもしれませんが、そうやって私たちは新しい時代の要求を大事にし、一生懸命にチャレンジする喜びをもらえているのです。

もちろんそれは、多くの人間にとっては随分難しいと思います。きっと怖いはず。でも、その怖さを乗り越えて行って欲しい。そのために一番最初にするべきことは「イマジン（想像）」なのです。本当に大事なことをする時には、まず頭で考え、それをリアルな映像にして自分で繰り返し見てください。自分のハートの深い所にある思いを現実にするために、何度でも確かめ、そしてその夢を人と分かち合うのです。

「一人で見る夢はただの夢」だけれど、「みんなで見る夢は現実になる」。私もそうやって仕事を実現してきました。

幼いジョンが抱いていた大きな夢

英国のリバプールにはジョン・レノンの育った家が残っていますが、彼の部屋はわずか3畳くらいで、とても狭い小さな小さな部屋です。両親と離別して伯母さんに育てられ、寂しさや悲しさを感じていた少年が、その狭い部屋で、自分がいつか音楽を通して大きなことをすると夢見ていたのは、本当にすごいことだと思います。

あなただって自分の城は、4畳半か6畳の小さな部屋かもしれません。でも自分が考えていることはいくらかでも大きく広げていける。強い思いから発しているクリエイティブなことは、世界中に伝わっていくものです。

現在の若い人は、例えば絵を描くなら油絵の具が必要だとか、仕事に最新の機器が欲しいとまず条件をそろえてもらおうとかといったことをします。でも牢獄に捕らえられている囚人は、どうしても何か描きたいとなったら、鉛筆一本さえなくても自分の爪で壁を引っかいて描

き始めるでしょう。それほど人間が持つコミュニケーションの欲望はすごい。誰もが人にコミュニケーションして、何かしようという思いを持っているものです。

ジョージ・ハリスンが「仕事は非常に大事なもので、幸福も自分にくれる。だから神聖なものだ」と言っています。私もまさにそうだと思います。仕事の中に自分の夢を見る、その光を抱き続けてください。（談）

■オノ・ヨーコ：芸術家・音楽家。1933年東京都生まれ。1960年ころからニューヨークを拠点に前衛芸術活動を行う。69年ビートルズのジョン・レノンと結婚、共に創作活動や平和運動を展開する。80年のジョン・レノンの死去後も「愛と平和」のメッセージを発信し続け、前衛芸術、音楽活動を展開している。2009年ベネチア・ビエンナーレで金獅子賞受賞。

■ジョージ・ハリスン：ビートルズのメンバーの一人。

（出典：「仕事力」 オノ・ヨーコが語る仕事（1）「心の光を消さないで」、朝日新聞、2013年1月6日、一部改変） 承諾書番号【A15-1287】※朝日新聞社に無断で転載を禁止する。

問1 この文章で語り手が伝えようとしているメッセージを、180字以内にまとめ、解答欄

1

 に記しなさい。

2 次の文章を読んで、問 1, 2 に答えなさい。

フロムは「信念＝信じること」が人を愛するためには必要だと語る一方で、信じるという行為は、危険性を秘めているとも述べています。「信じる」という言葉を聞くと、信仰＝宗教をイメージする人が多いと思いますが、宗教はある種の逃避行為とも言えます。なぜなら宗教は、理性を捨てて教義のすべてを信じないと成り立たない部分があるからです。

(中略)

フロムは「信念」について、以下の二種類があると述べています。

「信じる」という問題について考える前に、まず、理にかなった信念と根拠のない信念とを区別しなければならない。私のいう根拠のない信念とは、道理にかなわぬ権威への服従にもとづいた、(ある人物や理念への) 信仰のことである。それにたいし、理にかなった信念とは、自分自身の思考や感情の経験にもとづいた確信である。それは、何かをやみくもに信じるのではなく、私たちが確信を抱くときに生まれる確かさと手ごたえのことなのだ。

この分類に従えば、宗教は、根拠のない信念ということになります。フロムがユダヤ教のラビの家系に生まれ、幼い頃からユダヤ教信者だったことからすると、この考え方は意外に思えますが、彼は二十代でユダヤ教を捨てています。そして「宗教や政治体制は最初は理にかなったものであったとしても、権力と結びつくことで腐敗する」と考えて、その後は一定の政党や宗教に属することなく、ニュートラルな立場から心理学や社会学の研究を続けたとされています。

人を愛するのに必要なのは、言うまでもなく、「理にかなった信念」のほうです。この信念とは、先に見た「自分自身の思考や感情の経験に基づいた確信」、つまりは他の大多数の意見や権威に左右されることのない、自分だけがもった独立した信念のことです。

そうなる、まずは自分自身を信じる必要があります。なぜなら自分自身を信じていないと「私は私である」という確信が揺らいで、他人に判断をゆだねることになってしまうからです。

自分を信じ、他者を信じ、人類すべてを信じるのが、フロムのいう「信念」です。自分を愛することが他者を愛することにつながり、やがては人類を愛することにつながっていくと別の箇所述べていることに鑑みると、信念は、愛と同義語だと捉えて差し支えありません。彼は信念と愛の関係を以下のようにも述べています。

愛に関していえば、重要なのは自分自身の愛に対する信念である。つまり、自分の愛は信頼に値するものであり、他人のなかに愛を生むことができる、と「信じる」ことである。

さらにフロムは、信念をもつために「勇気」が必要だと続けます。ここでいう「勇気」とは、あえて危険を冒す能力、そしてそれに伴う苦痛や失望をも受け入れる覚悟のことです。現代の日本では、他者と接することで自分が傷つくのを恐れ、殻に閉じこもる人が増えていますが、フロムは彼らに対するメッセージとも思えるような、こんな言葉を記しています。

安全と安定こそが人生の第一条件だという人は、信念をもつことはできない。防御システムをつくりあげ、そのなかに閉じこもり、他人と距離をおき、自分の所有物にしがみつくことによって安全をはかろうという人は、自分で自分を囚人にしてしまうようなものだ。愛されるには、そして愛するには、勇気が必要だ。ある価値を、これがいちばん大事なものだとは判断し、思い切ってジャンプし、その価値にすべてを賭ける勇気である。

では、ひきこもりの人の多くは、愛してもらえないことを恐れて部屋にこもっているのでしょうか？フロムはいいます。「人は意識のうえでは愛されないことを恐れているが、ほんとうは、無意識のなかで、愛することを恐れているのである」と。

確かに、人を愛するには勇気が必要です。愛するということは、なんの保証もないのに行動を起こすことです。こちらが愛すればきっと相手の心に愛が生まれるだろうという希望に自分をゆだねることです。こちらがいくら愛しても、相手からは愛してはもらえないかもしれないし、気持ちのすれ違いや衝突が起こるかもしれません。それでも、恐れずに勇気をもって一歩踏み出してみることが大切なのです。

■フロム：Erich Fromm（1900～1980）ドイツ生まれの精神分析学者・社会学者

（出典：鈴木 晶，フロム『愛するということ』（100分 de 名著），p.84-88，NHK 出版，2014，一部改変）

問1 「人を愛するには何が必要か」について、この文章で述べていることを、150字以内にまとめ、解答欄 - 1 に記しなさい。

問2 「人を愛すること」について、あなたの考えを150字以内にまとめ、解答欄 - 2 に記しなさい。